

番号	氏名	抱負
1	白石 順二	<p>私は平成25年度から2期に渡り理事に選出させていただいています。最初の2年は企画委員長として、学会の国際化に向けた取り組みや、本学会の組織再編成、新しい会員登録システムの構築などの事業について提案し、実現させるために努力しました。そして、平成27年度からの2期目は、学術委員長として専門部会の活性化や他団体との学術的な交流の促進、そして何よりも本学会全体の学術的レベルの向上に努めてきました。また、2期目は英文誌の担当理事も併任させていただき、2017年からのRPT誌の年4回発刊を実現化し、RPT誌のインパクトファクター取得に向けて努力しています。学会の国際化はまだ始まったばかりで、会員の皆さんに十分な理解を得るまでには至っていませんが、もし、理事として選出していただけるのであれば、10年後の本学会のあるべき姿をしっかりと見据えて、ブレない方針で今後も学会のために尽力したいと思っています。</p>
2	飯田 紀世一	<p>支部においては6年理事として昨年度からは東京支部の支部長として支部運営に、また本部においては大会開催委員と出版委員として、過去には総会学術大会実行委員として本部運営にも携わらせて頂いております。支部会員のニーズを吸い上げ支部の更なる活性化を図るとともに会員本位の視点に立った本部の学会運営の円滑な遂行と発展のために、最善の努力を尽くす所存です。</p>
3	奥田 保男	<p>私は国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所に所属し医療被ばく、放射線治療、医療情報などの研究と業務に従事しています。本学会は今後、国際化など大きく変革することが予測されますが、そんな中、国際的環境が身近にあり、かつ医療機関外の環境にいる研究者としての考え方や視点が、本学会には必要になるのではないのでしょうか。本学会に課せられた責務は、関連団体との連携を含め、放射線技術学に関する研究や知識・技術の交換と共有など、学術の進歩発展に寄与することと考えます。そこで、国際機関との連携も含め、医療被ばくなど放射線領域における研究基盤の構築、および情報共有や機械学習など次世代への利用性を含めた研究を進め、学会の発展に寄与したいと考え立候補させていただきます。</p>
4	遠藤 登喜子	<p>私・遠藤は医師として来春で44年、放射線診断に従事して40年になります。日常診療では現在も放射線診断業務にたずさわる一方、マンモグラフィのCADの開発、新マンモグラフィ装置やトモシンセシスの開発、及びマンモグラフィの精度管理活動に取り組んで参りました。放射線が関わる医療分野においては、装置の開発からヒトへの適応、継続した評価などは多くの研究者・技術者および医療従事者の協力の上に成り立っており、弛まぬ努力により良い装置・良い検査・良い医療の実現が可能となっています。従前の研究および社会活動で得られた知識を他分野の研究や事業に応用することにより放射線分野全体の発展が実現できると考えています。本学会には平成13年6月に入会、平成18年度からは学術委員会委員、平成25年度から理事を2期務めさせていただいておりますが、あと1期2年間微力ながら本学会に貢献できればと考え、理事に立候補致しました。</p>
5	田中 利恵	<p>本学会で学び、成長し、多くのご縁をいただきました。本学会の更なる発展と会員サービス向上お役に立てればと、このたび理事に立候補いたしました。理事に選んでいただいた際には次の事項を念頭において責務をまっとういたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多様な人材の活用(ダイバーシティの促進): 多様な人材が活躍する組織は、しなやかさで強く逞しく、活力に溢れた組織だと考えます。人材発掘・育成のための仕組み作りに取り組みます。 2) 関連団体との連携強化: 多様な学問体系の融合が、放射線技術学の新たな潮流を創出します。医学・工学・物理学などの他の学術団体や技師会との合同企画・イベント共催を推進します。 3) 国際的な学術交流の推進: 私たちの技術をより高め、より多くの人に使ってもらうための国際化です。共に学び、競い合い、成長する、実質的な学術交流を推進します。